**令和６年１１月開催 第５回福部地域振興会議視察概要**

目　　的　　地域に密着して地域観光資源の魅力創出に取り組んでいる例を視察し、今後の地域振興として農業や観光などの基幹産業の活性化策に係る議論に資することを目的とする。

日　　時令和６年１１月２０日（水）９：００～１７：００

場　　所由志園アグリファーム（株）

出席委員上山弘子**、**谷口孝義、中島幹夫、西尾祥幸、西田一幸、濱田香、松田浩稔、岩﨑幸子（順不同敬称略）

欠席委員　　中川玄洋、宇山英俊、岸本正枝、加藤美幸（順不同敬称略）

事 務 局　　山根産業建設課長、水戸口市民福祉課長、山田地域振興課課長補佐

視察内容

由志園アグリファーム（株）専務から、「農業×観光×販売」をテーマに牡丹と雲州人参の農業継承と今後の農業ビジネスについて説明を受けた。

|  |  |
| --- | --- |
| 【由志園　アグリファーム（株）専務】 | ・農家数が減少し、雲州人参と牡丹を衰退化させてはいけないと考え、農業をすることになり、2009年に会社を設立。・牡丹と雲州人参だけでは農業景観の保全はできないが、セイタカアワダチソウが自生するくらいなら蕎麦を作ろうと考えた。・環境保全型農業直接支払交付金を活用し、裏作で緑肥になる菜種を植えた。そこが、黄金色の綺麗な圃場に見えるため、景観もよくなり、化学肥料を半分に減らす効果がある。・正社員は全員農業経験者ではないが、農業をやめた篤農家の方々をパートとして雇用しており、年齢層も幅広い。親子三代に渡って仕事をしているような体制を維持できている点が伝統農業技術の継承・保存・伝承の成功事例と考える。・自分達で経営と加工を行い、販売することで、1×2×3の6次産業になる。・機械でできない作業が大半。障害自立支援センターから2名から6名来ていただき、雲州人参を洗う作業を行っている。・島根県と「島根県の時代を担う農業経営者育成協定」を締結し、4年後に自営するためのプロジェクトとして農業に興味のある者を育成している。作った牡丹を弊社が購入し、弊社で働くことで収入も安定し、新規就農者へのサポート（機械のリースやノウハウなど）を行っている。・これからは、いろいろな技術を取り入れる必要があり、大学と提携して今後の農業が発展するようなやり方の研究を進めている。・さんいん中央テレビと業務提携して農業を行い、繁忙期の手伝いやマネジメント等を教えるコンサルのようなこともしている。・本社で「和寂趣彩」という冊子を5万部ぐらい出しており、ダイレクトメールの回収をしている。・さんいん中央テレビとコラボしたYouTube「結び農縁」がある。・農業は規格外の商品が売れるようになるとかなりよくなると思う。・島根には「美味しまね認証」があり、全国的にもGAP（持続可能な農業のために生産者が取り組むことをまとめた基準）に匹敵するぐらいの認証制度で県も推奨している。・牡丹を出荷するためには摘花が必要で、その作業を農家さんの所でさせてもらうと何色の牡丹が咲くか分かる。いいものを作るために摘花し、秋には由志園で購入し、池に浮かべて観光客の集客に繋げる。これは大根島でなければ出来ない裏技だと思う。牡丹の開花はコントロールできないが、ゴールデンウィークの集客のために大型の冷蔵庫で保管すれば、4月下旬から5月７日ぐらいまで牡丹を池に浮かべることができる。・農業×観光×販売で地域を活性化することが狙い。1人勝ちではなく、みんなで儲けることが自社の農業ビジネススタイル。 |
| 質疑応答 |  |
| 【委員】 | 高麗人参だと思っていたが、ここでは雲州人参と言うのか。 |
| 【由志園　アグリファーム（株）専務】 | 呼び名はいろいろあり、オタネニンジン、朝鮮人参、雲州人参。朝鮮人参は語源にかかる。本来は種から作るのでオタネニンジンとも言う。国内で島根県・長野県・福島県が3大生産地であるが、産地感を出すため、長野は信州人参、福島は会津人参という呼び名で呼ばれている、農業は、たくさんの課題があり儲からない。これからの農業ビジネスはスマート農業。スマート農業＝大規模化＝経費節減、効率化。これからは、地域特産的な作物が儲かる仕組みを作ることが課題。 |
| 【委員】 | 26歳で妻子もいるなかで、どういうところに魅力を感じ、やっていけそうだと思われたのか。 |
| 【由志園　アグリファーム（株）従業員】 | 電力会社に勤務しており、定年後に農業をしようと考えていたが、若い時から経験を積んだ方がいいと思い、退職して農業を始めた。農業は儲からないことを感じているが、今後4年で手探りしていく。 |
| 【由志園　アグリファーム（株）専務】 | パートやアルバイトの労働時間が通年で安定しないと辞めてしまうため、牡丹と人参の閑散期には他の作物を作る。働き方改革として、本部と同じように休暇や有休、残業もある雇用条件にしている。今後の農業ビジネスの展開として、新規就労の支援を行うことで弊社が購入したい作物や購入価格が分かるため、育てる作物や量を見極めて作ることができる。 |
|  |  |

≪参加した委員の所感≫

農業に興味のある若者の育成に力を入れ、新規就農者へのサポートが充実していた点を評価していた。

視察の状況



